現代（いま）を活（い）きる

当別町交通安全指導員会

山下 義則さん

Yamasita Yosinori

今年、死亡交通事故が３件

昨年度、町内での死亡交通事故は０件でしたが今年はすでに３件発生しています。北海道警察では、降雪が始まるこの時期に事故発生が増えることから、全国ワーストワン転落を危惧しています。当別町交通安全指導員会会長の山下義則さん（元町）にその取組みをお聞きしました。

想像を超えた今年の大雪の影響と思いますが、中小屋と対雁の国道で雪道のスリップによる車同士の衝突、夏では青山四番川でのオートバイの単独事故など、いずれもスピードの出しすぎと、道路状況の判断ミスで痛ましい事故が起きています。当別は交通の要衝ともなっているので通過型の事故が多いのも特徴です。この時期は日も短くなり歩行者の発見も遅れます。雪が降れば道路状況が大きく変わるので、特に注意が必要です。交通安全指導員会ではお年寄りと子どもなど歩行者を車から守るために交通安全教室を実施しています。小学校での交通安全教室では新１年生に信号の見方、踏切、交差点の渡り方、自転車のルールを指導しますが、それを習慣づけるため、登校時の街頭での立哨指導に一番力を入れています。最近気になるのは、自転車の乗り方の乱れ。自転車は車両で、歩行者とは違い運転しているという自覚がもっと必要です。大人も子ども達の前では正しい見本を示せるよう気をつけてほしいものです。

交通安全運動が年４回あり、お祭、イベントでの交通整理など、年間40日ほどの活動をしています。現在16人のメンバーで、自営業、会社員の方など仕事の合間を縫ってのボランティアです。女性指導員も５人おり、いずれもこの町から交通事故の犠牲者を出さないようにとの思いで活動しています。いつも同じ場所に立って行う街頭啓発では、子ども達からもよく挨拶を受けます。お互いの声かけで地域の防犯にも役立っていると思います。

指導員の制服は市町村によって異なります。当別では警察の制服と似たデザインで作られています。車のドライバーから注意を引く上でも制服の効果はあり、指導に有効なものです。また制服を着ることで気持ちを引き締めます

やりがいのある仕事だと思います。交通事故を減らす目的のもと、地域の集まりなど、人と密着した活動をしているという実感があります。メンバー同士の親睦、交流も盛んで、姉妹都市の宇和島市、大崎市の交通安全指導員とも交流し、宇和島では「牛鬼まつり」にも参加、祭りの交通整理もしてきました。

今回は初めて広報紙でメンバーの募集も行っています。関連記事は11ページ（10月18日取材）